

大間原子力発電所審査資料	
資料番号	OM1-CA125-R01
提出年月日	2020年9月14日

大間原子力発電所

敷地周辺及び敷地近傍の地質・地質構造

(コメント回答 その10)

(sF 断層系に関わるボーリングコアの地質柱状図, コア写真及び BHTV 画像)

【抜粋版】

2020年9月

電源開発株式会社

本資料のうち で示す箇所は、商業機密あるいは防護上の観点から公開不可としているもので、白抜きとしてあります。

大間原子力発電所

敷地周辺及び敷地近傍の地質・地質構造

(コメント回答 その10)

(sF断層系に関わるボーリングコアの
地質柱状図, コア写真及びBHTV画像)

2020年9月14日

電源開発株式会社

本資料のうち で示す箇所は、商業機密あるいは防護上の観点から公開不可としているもので、白抜きとしてあります。



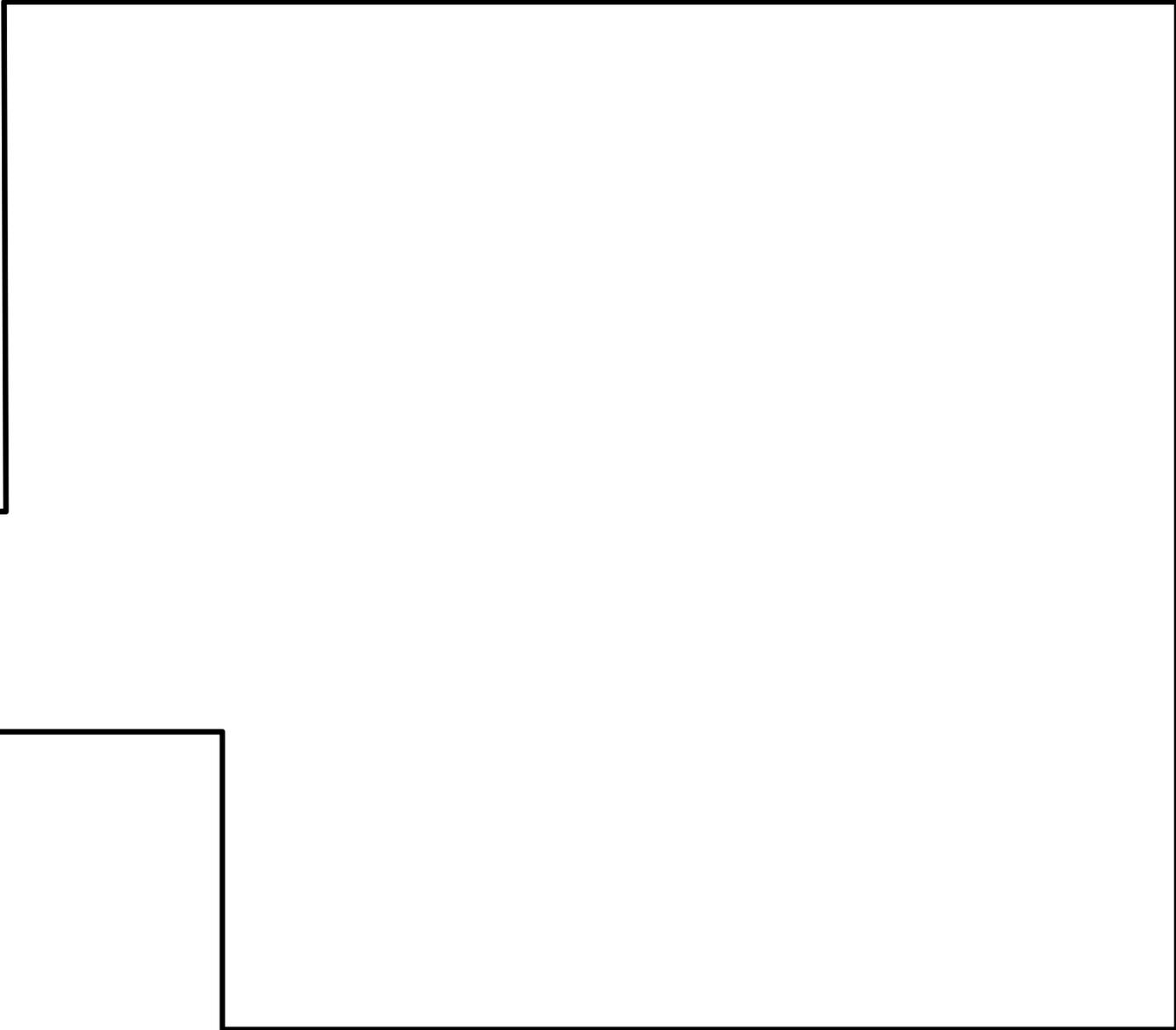
1. ボーリング調査位置図(3/5)

敷地におけるsF断層系のボーリング調査位置図(3/3)

□で示す箇所は、商業機密あるいは防護上の観点から公開不可としているもので、白抜きとしてあります。

凡 例

- 反射法地震探査 EW測線(2013年)
- バイケーブル B102測線(1998年)
- 統合解析断面線 (数字:CDP)
- 断面線沿いボーリング (矢印は斜めボーリング)



注) 海域のdF断層系の断層については、個別の断層名を区別せずに扱うが、識別する必要がある場合を踏まえ、断層名をdF-m1及びdF-m2断層として記載する。

3. 地質柱状図(104/158)

IT-66-e孔 深度300m~330m

標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	柱状図	地層名	地質名	岩盤区分	色調	コア採取率 (%)		最大コア長 (cm)	R Q D (%)		記事
								0	100		0	100	
300								100	100	51	100	100	303.27m~303.31m: 酸性凝灰岩をブロック状に含む。 303.49m~303.51m: 酸性凝灰岩が分布する。 303.58m: 厚さ約2.0cmのソーム(S-Om)がある。 304.45m~304.47m: 酸性凝灰岩が分布する。 304.71m~304.75m: 酸性凝灰岩が分布する。 305.10m~305.13m: 酸性凝灰岩をブロック状に含む。 311.19m: 見掛けの傾斜角約90°~約45°の要位を伴う不連続面がある。破砕幅約47cmで、310.95m~311.01m間では幅約4.0cm~約9.0cmの粘土質物質を採在する。 312.87m~312.98m: 酸性凝灰岩をブロック状に含む。 313.29m~313.35m: ソルト岩をブロック状に含む。 315.65m~315.76m: ソルト岩をブロック状に含む。 315.98m: 厚さ約1.3cmのソームがある。 316.45m~316.47m: 酸性凝灰岩が分布する。 316.47m: 厚さ約1.0cmのソームがある。 317.20m~317.25m: 酸性凝灰岩が分布する。 317.69m~317.75m: 酸性凝灰岩が分布する。 319.35m~319.41m: 酸性凝灰岩が分布する。 319.82m~319.87m: 酸性凝灰岩をブロック状に含む。 320.19m: 見掛けの傾斜角約50°の要位を伴う不連続面がある。見掛けの鉛直変位量は約11.0cm以上、密着している。 320.30m~320.32m: 酸性凝灰岩が分布する。 321.23m~321.35m: 酸性凝灰岩が分布する。 322.11m~322.17m: 酸性凝灰岩をブロック状に含む。 322.58m~322.61m: 酸性凝灰岩が分布する。 323.65m~323.70m: 酸性凝灰岩をブロック状に含む。 324.32m~324.33m: 酸性凝灰岩をレンズ状に含む。 325.25m付近: ソルト岩の貫入面は見掛けの傾斜角約50°で密着している。
301								100	100	55	100	100	
302								100	100	81	100	100	
303								100	100	33	98	100	
304								100	100	61	100	100	
305								100	100	57	100	100	
306								100	100	47	97	100	
307								100	100	41	100	100	
308								100	100	36	71	100	
309								100	100	44	89	100	
310								100	100	37	60	100	
311								100	100	16	28	100	
312								100	100	14	37	100	
313								100	100	43	75	100	
314								100	100	49	69	100	
315								100	100	13	13	100	
316								100	100	51	93	100	
317								100	100	22	96	100	
318								100	100	43	86	100	
319								100	100	27	98	100	
320								100	100	46	81	100	
321								100	100	30	73	100	
322								100	100	46	88	100	
323								100	100	28	89	100	
324								100	100	55	89	100	
325								100	100	23	83	100	
326								100	100	19	29	100	
327								100	100	22	49	100	
328								100	100	10	10	100	
329								100	100	17	57	100	

(注) 柱状図記事欄の深度315.63mに記載している「df-a断層」については、本編資料等ではdf-m1断層に該当する。



3. 地質柱状図(129/158)

S-624孔 深度60m~90m

孔名: S-624		孔口標高: T.P. -5.99m		掘削長: 170.00m (6-3)											
標尺 (m)	深度 (m)	標高 T.P. (m)	柱状図	地層名	地質名	岩盤区分	色調	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	記事				
60	61.33	-67.32	△△△△	奥国側層 下部層	安山岩溶岩(角礫状)	hsk	黒/暗黄灰	100	97	97	76.00m~76.04m: 黒色の急角円縁相が認められる。 76.04m~76.36m: 細粒凝灰岩が分布する。 76.29m: 厚さ約1.3cmのレームがある。 76.12m~76.41m: 細粒凝灰岩が分布する。 76.43m: 厚さ約0.5cmのレームがある。				
61	61.33	-67.32	△△△△					100	22	87					
62			△△△△					100	30	84					
63			△△△△					100	53	100					
64			△△△△					100	51	94					
65			△△△△					100	35	100					
66			△△△△					100	49	92					
67			△△△△					100	63	94					
68			△△△△					100	65	100					
69			△△△△					100	35	75					
70			△△△△	100	38	97									
71			△△△△	100	40	100									
72			△△△△	100	20	72									
73			△△△△	100	23	100									
74			△△△△	100	82	82									
75			△△△△	100	32	91									
76	76.04	-82.03	△△△△	奥国側層 下部層	粗粒凝灰岩	ht/ctf	黄灰-灰	100	30	76	76.00m~76.04m: 黒色の急角円縁相が認められる。 76.04m~76.36m: 細粒凝灰岩が分布する。 76.29m: 厚さ約1.3cmのレームがある。 76.12m~76.41m: 細粒凝灰岩が分布する。 76.43m: 厚さ約0.5cmのレームがある。				
77	77.56	-83.35	△△△△					100	49	93					
78	78.51	-84.50	△△△△					100	81	100					
79	79.28	-85.27	△△△△					100	34	87					
80	79.43	-85.42	△△△△	奥国側層 下部層	粗粒凝灰岩	ht	黒/黄灰-暗灰	100	34	87	79.37m: 厚さ約1.5cmのレーム(S-6)がある。				
81			△△△△					100	55	89					
82			△△△△					100	67	93					
83			△△△△					100	34	94					
84			△△△△					100	27	84					
85			△△△△					100	68	91					
86			△△△△					100	86	96					
87			△△△△					100	71	100					
88	88.30	-94.29	△△△△					奥国側層 下部層	粗粒凝灰岩	dkf		黒/灰	100	71	88.18m~88.21m: 細粒凝灰岩が分布する。 88.19m: 厚さ約0.3cmのレームがある。 89.48m~89.47m: 細粒凝灰岩が分布する。 89.45m: 厚さ約0.2cmのレーム(S-2)がある。 89.75m: 傾斜角約90°の断層(df-a)がある。破砕部は認められない。
89	89.37	-95.36	△△△△										100	35	100
90			△△△△	100											

注) 柱状図記事欄の深度89.78mに記載している「断層(df-a)」については、本編資料等ではdf-m1断層に該当する。